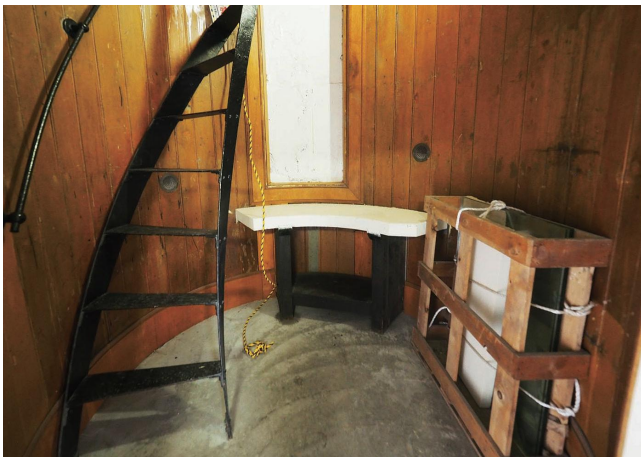




2階から3階へつづく鉄の階段。天井の意匠も美しい。壁の盛り上がっている所（左側）が分銅筒



3階には戸棚がありました



灯塔1階部分。予備のガラス板が置かれていました これ↑



YouTube もご覧ください。
「灯台リポート」で検索！



石狩灯台 (Ishikari)
灯 質 : FL W 20s
単閃白光 毎20秒に1閃光
光達距離 : 13海里 (約24km)

取材協力：小樽海上保安部



点灯125周年のイベントではライトアップされてより素敵に



リポート No.06
石狩灯台



うみまる君とさけ子さん



第6等閃光レンズ (BARBIER 製)



現在は LB-M30 型灯器を使用



初代灯台の10分の1スケール

北海道の石狩川河口に建つ石狩灯台。石狩川が内陸部に物資を運ぶための重要な航路だったため、明治25年に建てられました。現在の灯台は2代目(鉄造)で、映画「喜びも悲しみも幾歳月」を撮影していた際、監督からの要望で白塔から白赤の縞模様に塗り替えられたというエピソードも有名です。

北海道に現存する最も古い灯台で、昨年は初代灯台の初点灯から125周年、今年は2代目灯台が建てられて110年とアニバーサリーイヤーが続いています。

今回特別に登らせて頂いたところ、内壁には木材が使われ、当時の様子を残していました。そして他の灯台に比べて各フロアの空間が広く感じるのは、分銅筒(レンズを回転させる動力を得るために重りを下ろしていた柱状の筒)が中心部になく、壁際に配置されていたためでした。

また、記念式典に際し、東京の「船の科学館」で展示されていたフレネルレンズがお里帰りを果たし、近くのビジターセンターで見学が可能です。「マウニの丘」という素敵なカフェもあるので、好きな人やご家族と一緒に訪れても楽しめる灯台だと思います。ぜひ注目ください。

またYouTubeでも石狩灯台を紹介しています。「灯台リポート」で検索してくださいね！